

補助事業番号 27-1-107  
補助事業名 平成27年度 青少年の健やかな成長を育む活動 補助事業  
補助事業者名 公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団

## 1 補助事業の概要

### (1) 事業の目的

プロの演奏家にご指導をいただき高い演奏水準を目指しつつ、ホールや地域の公共施設などで定期的に発表の機会を設け、ジュニアオーケストラの演奏を多くの人に聴いていただき、団員にも観客の前で演奏する醍醐味を味わってもらおう。春季演奏会では、形式・選曲なども子ども達の希望を取り入れたり、子ども達による司会・楽器紹介などを取り入れたりするなどして、自主性を育む。

### (2) 実施内容

①秋季演奏会(第1回オータム・コンサート)の実施(<http://mitaka.jpn.org/ticket/1510180/>)



秋季演奏会



秋季演奏会

今年度より、秋季演奏会を「オータム・コンサート」という名称に変更した。有志によるアンサンブルでは、バロック時代の作品からフランス近代の作品までの5作品が演奏された。初めてアンサンブルを経験する団員は、経験のある団員や講師のアドバイスを受けながら、計画的に練習を行っていた。また、弦楽器のアンサンブルでは、例年よりもレベルの高い作品に挑戦した。頻繁に拍子が変わり、複雑なリズムが盛り込まれた作品に、団員達は最初こそ戸惑いを見せていたが、すぐに作品の特徴を捉え、本番では非常に完成度の高い演奏をお届けすることができた。管・打楽器によるアンサンブルでは、楽器の響かせ方や歌わせ方を講師が細かく指導した成果が現れていた。全体合奏では音のバランスを重視し、講師陣がホール内の様々な場所で入念に確認を行った。我々のような比較的小規模なオーケストラにとっては、音のバランスを確認することは最も重要な作業であり、プロの目線でアドバイスをもらったことは、団員にとって大変心強かったと思われる。

## ②春季演奏会(第16回演奏会)の実施(<http://mitaka.jpn.org/ticket/1603200/>)



春季演奏会



春季演奏会

今回は協奏曲と交響曲に加え、アイヴズという作曲家の現代作品に挑戦した。協奏曲は、クラリネット講師の澤村康恵氏を迎えてウェーバーの作品に取り組んだ。この作品は、独奏クラリネットが自由なテンポで演奏する箇所があるため、該当する部分を集中して練習を行った。結果として、これまで培ってきたアンサンブル力を活かせる演奏となった。現代作品については、「問い」(トランペット)に対する「応え」(木管楽器)、そして「沈黙」(弦楽器)によって構成された作品であることから、作品の核となるトランペットは、2階バルコニーの最も奥に配置し、木管はバルコニー席、弦楽器は2階席後方に定めた。複数個所に演奏者が立つことから、もう1名指揮者を用意し、ステージ上と客席内に2名配置した。リハーサル時に立ち位置を入念に確認した結果、風のホールの全体を使用することで、作品の世界を大いに表現することができた。最後の交響曲全楽章は、集中力と体力を要するため、特に小学生の団員には負担が大きいかと懸念されたが、繰り返し練習を重ねることで、問題なく弾き切ることができ、これにより団員も自信を得たようだった。

## ③訪問演奏会の実施

### 幼稚園訪問演奏会と高齢者福祉施設訪問演奏会



幼稚園訪問演奏会



福祉施設訪問演奏会

12月に開催した幼稚園訪問演奏会は、アニメ作品の主題歌や、童謡をメドレーにした作品を取り入れ、短い時間でも内容の濃い演奏会となった。楽器紹介をする団員も、クイズ

形式で質問を投げかけるなど、園児が飽きないよう工夫をしていた。終了後のアンケートによると、この演奏会を初回(2010年)から欠かさず聴いてくださっている保護者もあり、なかなか聴くことのできない生演奏を、園児とさほど年齢の変わらない子供たちが演奏することは、非常に刺激になっているなどのご意見をいただいた。

高齢者福祉施設の訪問演奏においては、今年度は7年ぶりに東京弘済園を訪問した。リクエスト作品を含めた5作品と、楽器紹介を行った。中でも今回は、オーケストラで使用される楽器を大きく2つ(弦楽器と管・打楽器)に分けて楽器紹介をした後に、弦楽器のみでのアンサンブル、管・打楽器によるアンサンブルをそれぞれ演奏した。弦楽器のアンサンブルでは、独奏ヴァイオリン2名及びチェロのソロと、弦楽合奏による作品に挑戦した。これは、弦楽器のレベルが年々上がってきていることからによるものである。また、管・打楽器では、指揮の内藤氏による編曲で映画音楽を演奏した。いずれの作品も耳馴染みのある作品を中心に選曲したことから、客席は、非常に関心を持ってくださり、作品が終わるたびに大きな拍手が沸き起こった。また、例年よりも演奏場所は広がったが、デイサービスの利用者を中心にほぼ満席となった。

## 2 予想される事業実施効果

小学生の団員が増え、技術面で上級生に早く追い付きたいという気持ちが演奏となって現れ、その気持ちは上級生にも伝わり、刺激になっているようである。演奏会を通じて、もっと多くの場面で演奏がしたい、アンサンブルをやってみたい、演奏会の司会をやってみたいなどの具体的な目標を掲げ、日々努力をしている団員も多くいる。このような想いが積み重なることで、全体のレベルが少しずつではあるが高くなっているように思う。

事務局としては、何よりも音楽が楽しいと感じてもらえる環境作りと、知名度の向上が求められていると考える。特に知名度に関しては、公演アンケートによると「名前は知っていても、どんなことをやっているのかまでは知らない」という方が未だ多い。そのため平成28年度は地域に根ざした活動のひとつとして、三鷹市内のコミュニティ・センターを訪問する予定である。幅広い年齢層が集うコミュニティ・センターで演奏することで、活動の内容を知ってもらい、団員達の普段の様子を垣間見ることができると考えている。また知名度の向上にも繋がることから、オーケストラに興味を持ってもらいたいという想いと、演奏会の際の集客の向上にも繋がると考えられる。これまで以上に地元で根ざした活動を広げることで、知名度を上げながら、団の活動が一層の活性化を目指していく必要があると思われる。

### 3 補助事業に係る成果物

#### (1) 補助事業により作成したもの

- ・ 第1回オータム・コンサート チラシ 30,000部
- ・ 第1回オータム・コンサート ポスター 300部
- ・ 第1回オータム・コンサート パンフレット 600部
- ・ Mitaka Arts News特別号(新聞折込広告) 150,000部
- ・ 第16回演奏会 チラシ 30,000部
- ・ 第16回演奏会 ポスター 300部
- ・ 第16回演奏会 パンフレット 600部

#### (2) (1) 以外で当事業において作成したもの

なし

### 4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人三鷹市スポーツと文化財団  
(コウエキザイダンホウジン ミタカシスポーツブンカザイダン)

住 所： 〒181-0012 東京都三鷹市上連雀6-12-14

代 表 者： 理事長 内田 治 (ウチダ オサム)

担 当 部 署： 事業課 音楽企画員 (ジギョウカ オオンガクキクイン)

担 当 者 名： 吉田 歩 (ヨシダ アユミ)

電 話 番 号： 0422-47-9100

F A X： 0422-47-6700

E - m a i l： a-yoshida@mitaka.jpn.org

U R L： <http://mitaka.jpn.org/mjo/>